

自転車利用実態定点調査報告

平成28年 12 月

(一財)日本自転車普及協会

調査目的 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

調査日時 平成 28 年 11 月 2 日
[午前]8:00~8:50

調査場所 ・ 都立〇〇高校(共学)
概要 ・ 調査対象(高校生の自転車通学実態)

調査事項 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車利用実態定点調査票

No.	走行空間			備考	危険走行			
	車道	歩道	その他		危険走行	危険走行	危険走行	危険走行
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23								
24								
25								

調査日時	平成 28 年 11 月 2 日
調査時間	8:00~8:50

<調査票>

[コメント]

◎走行空間においては、車道左側走行率は、30%であり、車道中央走行率は、1%・歩道走行率は、69%の結果であった。

◎危険運転行為は、立ち漕ぎ(50件)・ハンドルに荷物(8件)・カバン背負い(6件)・ギター背負い(5件)・片手運転/過積載(各3件)・車道中央(2件)・イヤホン使用(1件)の順となっている。

【総合】

今回の調査は、引き続き、高校生の自転車通学の実態を調査したものであり、一般の人と比較して高校生が自転車のルール・マナーを遵守して利用しているかの判断基準となりうるものである。

同校の生徒においては、左側通行者は、全体の3割であり、ルール・マナーの遵守率は、通常レベルである。

なお、危険運転行為の中では、立ち漕ぎが、全体(78件)の65%(50件)を占めていた。

事故を招きやすいため、止めるべき行為である。

また、カバン背負いの生徒の一部は、校門通過左折(右折)時に、転倒する危険性が高まるので、極力避けるか、一時的に自転車から下車する等の行動が必須である。

しかし、数名の生徒がヘルメットを着用通学しており、危険回避に留意している。

なお、校門直前で左右や後方確認をしている生徒は、皆無であった。

因みに、同校での自転車通学の割合は、全校生徒(総数600人)の5割である。

校内には、自転車駐輪場が整備(総収容台数400台)されていた。

同校の登校時間(8時30分)直前5分前には、多数の生徒が校門を目指す状況となっていた。

さらに、登校時間を過ぎても一部の生徒が、自転車通学をしていた。

同校には、3箇所(正門・北門・東門)の校門が存在するが、自転車通学用の校門は、東門の1箇所だけであった。

また、同校での自転車通学の条件は、特になく、車種制限についても、特に行われておらず、スポーツ車や小径車等で通学している生徒もいた。

また、交通安全啓発の一環として、年初等に全校生徒を対象に自転車乗り方指導等を実施している。



自転車駐輪場(全景)①



自転車駐輪場(全景)②



自転車駐輪場(各学年用)

